

さらなる未来へ。

70th Anniversary

山陽物産株式会社



発行日 平成29(2017)年8月4日
編集・発行 山陽物産株式会社
〒733-0011 広島県広島市西区横川町2丁目5-12 中谷ビル2F
Tel 082-232-2800
印刷 (株)ユニバーサルポスト
〒733-0833 広島県広島市西区商工センター7丁目5-52
Tel 082-277-5590



1945年
広島に原子爆弾投下

1947年
三井物産から独立
三井鉱山の石炭の取り扱い開始

1950年
戦後の食糧不足解消のため
肥料の取り扱い開始

1970年
山陽新幹線・山陽道開通などへ
特殊セメントの供給を開始

2010年
家庭用品部門を発足
エリそで洗剤は200万本を超える商品に

2017年
創業70年

ごあいさつ

昭和22（1947）年8月に創業した弊社は、本年をもちまして創業70周年を迎えることとなりました。50周年の際に記念誌を発行する構想もございましたが、事業多忙につき実現に至りませんでした。

しかし70年を経過すると関係者も次々に他界し、この機を逃すと創業当初の記録を残すことが永久に不可能になると考えました。そこで簡単ですが、ここに弊社のあゆみをまとめた小冊子を作成いたしました。

振り返りますと、多くの取引先のご協力、ならびに歴代社員の皆様の努力のおかげで、弊社はここまで発展することができました。これらの素晴らしい歴史が後世に残り、更なる会社と皆さまの発展に資することを祈念いたします。

記念誌発行に当たってはデンカ株式会社の皆様を始めとして情報収集に多くのご協力を頂きました。また、編集や戦前の三井物産の資料収集に当たっては広島大学の石田雅春准教授にも大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

以上、簡単ではございますが、社史発行のご挨拶とさせていただきます。

平成29（2017）年8月

代表取締役会長

秋山 俊伸



山陽物産株式会社
代表取締役社長

秋山 竜一



創立前史 —三井物産と初代社長 秋山 俊秀—

山陽物産創業者の秋山俊秀は、明治33（1900）年に秋山萬作（軍人、騎兵大尉）の長男として広島市に生まれた。修道中学校（旧制）を卒業後、大正14（1925）年に三井物産に入社し石炭部香港支部に配属された。終戦まで香港・広東に勤務し、ホンゲイ炭等の石炭取引に携わった。こうした経験が、後年の山陽物産の経営に役立つこととなった。

1 香港時代の秋山俊秀と家族（昭和13年頃）



2 香港支店前での集合写真（昭和20年頃）



3 テニスコートでの集合写真（昭和16年以前）

秋山俊秀（前列中央）はテニスが得意であった。外国人居留地ではテニスを通じた交流が必須条件であった。



4 べっ甲（秋山家所蔵）

昭和18年1月頃に秋山俊秀が日本の実家に送ったべっ甲の飾り物。貴重品が納められるように細工してある。この時苦心して送った小粒金や米ドルが創業時の資金になったと伝えられる。



財閥解体と山陽物産の創業

昭和22（1947）年、GHQ（占領軍）の命令により、財閥の解体が行われた。こうしたなか三井物産は特に厳しい処置が下され、会社自体の解散が命じられた。これを受け三井物産は第一物産をはじめ二百数十社に分割されることとなった。山陽物産は、秋山俊秀を中心として三井物産広島支店の幹部社員5名が集まり設立された。

時代の証言

田中 恭子（秋山俊秀 長女）

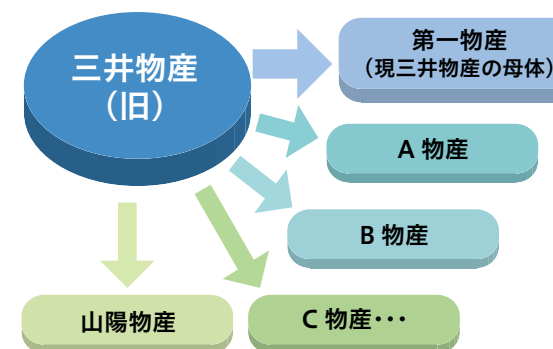
終戦の時、私は5才でした。住んでいた中国広州の沙面を夜間に慌ただしく離れ、収容所へ向かう途中、乗っていたトラックが銃撃を受けた恐怖は今でも鮮明に残っています。飢餓に苦しめられ、貴重品を次々に没収された収容所生活は辛いものでした。敗戦を事前に察知した父がしかるべき日のために準備したドル、金、現地通貨などは、飢えた4人の子供の命を救うための食糧に変わっていきました。

伝染病が蔓延する帰国船を経て、ようやく広島にたどり着いたのは9か月後の初夏でした。父の先を読む洞察力と機敏な行動力のお陰で誰一人欠けずに帰国できたのは奇跡に近いことだったと思います。

娘から見ると父は個性が強く、我が道を行くタイプで決して常識人とは言えない面がありました。その反面、努力と強い性格と忍耐力のおかげで原爆で焼け野原となった地に会社を設立し、70年間根を張ることができたのではと思います。父を支えてくださった多くの人々に感謝いたします。

5 三井物産の解体（イメージ）

GHQの命令により、「三井」の名称や旧社屋の使用、社員数や資本金などに厳しい制限が課せられた。このため社員たちは文字通り散り散りになって生活のため零細会社を設立した。



6 原爆ドーム周辺（昭和21年頃）

山陽物産の本社は広島商工会議所2階に置かれた。弊社が原爆で焼け残った数少ない建物をなぜ利用できたのか、その経緯は不明である。



できごと

- 大正14年9月5日 秋山俊秀 三井物産入社 石炭部香港支部受渡掛（石炭の港湾荷役を管理する部署）へ配属
- 昭和17年4月 広東支店石炭課長へ昇進
- 昭和20年8月 終戦。他の社員・家族とともに収容所にて抑留

できごと

- 昭和21年5月 秋山俊秀 日本へ引き揚げ
- 昭和22年7月 三井物産解散
- 昭和22年8月4日 山陽物産創業

石炭の販売と事業の拡大

創業当初は、ララ物資（アメリカの民間団体が日本に提供した援助物資のこと）などの運輸代行が業務の中心であった。その後、石炭と化学肥料の取り扱いを開始し、順調に業績を伸ばしていった。特に石炭は初代社長秋山俊秀の専門分野であり、三井鉱山の特約店として広島県内の販売を担った。創業時の本社は広島商工会議所にあったが、昭和39（1964）年に広島商工会議所が建てかえられることとなり、八丁堀へ本社を新築、移転した。

7 初代社長 秋山 俊秀 (1900~1993)

撮影当時（昭和61年）86歳。白島北町の自宅から八丁堀の本社まで片道2kmの道のりを毎日徒歩で通勤していた。



時代の証言

清野 昭（三井鉱山・元常務取締役）
一山陽物産が三井鉱山の石炭を取り扱うことができたのは、三井物産香港支店での秋山俊秀の長年の実績によるものかという質問に対して— そういうことはありえない。三井物産の解体にともない200社余りの新会社が設立された。三井の絆だけで販売権は与えられない。山陽物産が三井鉱山の石炭販売権を獲得できたのは別の理由があったと思われる。終戦当時の三井鉱山広島支店長だった野口享介氏に電話で聞いてみたが、ご高齢で「三井物産の秋山俊秀」と「配炭公団」という名前について記憶があるが、詳しい事情については覚えていないという話だった。

注：配炭公団は戦時下において石炭の配給を行うために設立された団体。昭和24年に石炭の統制撤廃・自由販売開始にともない解散となった。

8 役員一覧 (昭和34年)

配炭公団より竹爪玉夫氏が参画していることが分かる。竹爪氏は昭和24年頃より弊社に勤務し石炭の取り扱いを担当していた。

上記の清野昭証言等を総合すると、弊社が石炭の販売権を獲得するにあたり竹爪氏の助力が大きかったことが分かる。

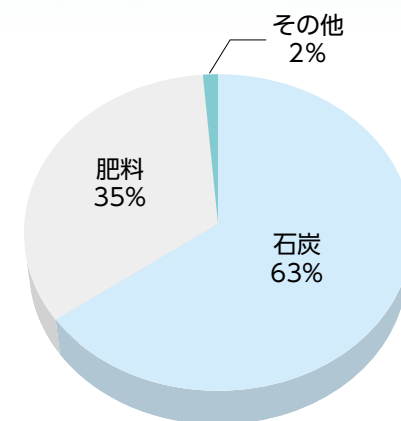
役職	氏名	前職
社長	秋山 俊秀	元三井物産社員
専務	曾川一二三	元三井物産社員
役員	竹爪 玉夫	元配炭公団職員

- できごと**
- 昭和23年 石炭の販売を開始
 - 昭和26年頃 貯炭場（宇品）を購入 肥料の販売を開始
 - 昭和37年 肥料用倉庫（可部）を建設
 - 昭和39年5月1日 八丁堀に本社を新築・移転



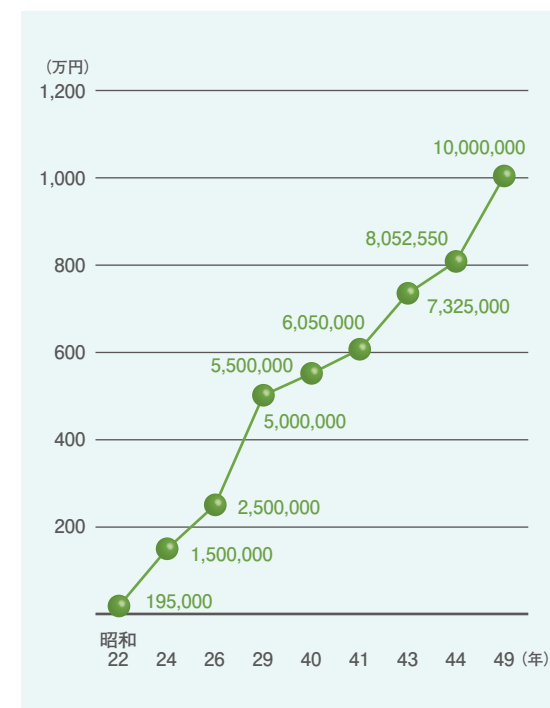
9 売上高の比率 (昭和25年度)

創業初期の主力商品は、石炭と肥料であった。時代が下るにつれ次第に肥料等の占める割合が増えていった。



11 資本金の推移

創業時の資本金はGHQの規制のため19万5千円であった。事業の拡大にともない、7年後には500万円まで積み増した。



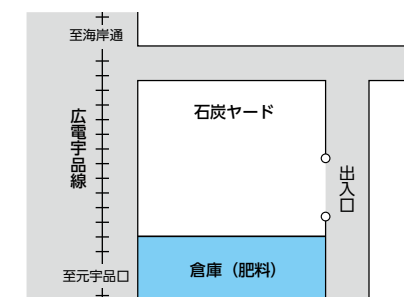
10 三井鉱山特約店プレート

旧本社時代に使用していたプレート。中央の「SBK」は、山陽物産株式会社の略称。



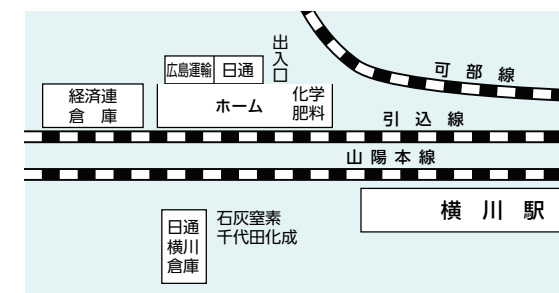
12 宇品貯炭場略図

現在の宇品海岸3丁目に貯炭場を所有していた。国鉄の貨車で宇品駅（廃線）に運ばれてきた石炭を保管し、トラックに積み替えて出荷した。



13 横川駅略図

取引先が貨車から直接商品を持ち帰ったため倉庫が不要だった。このため必要に応じて日通の倉庫を一時借用するだけで足りた。



石炭から化学肥料へ

創業初期の主力商品は石炭と化学肥料であった。化学肥料は、昭和26（1951）年に取り扱いを開始し、日産化学工業（日産アグリ→現サンアグロ）や電気化学工業（現デンカ）、東洋高圧工業（三井東圧化学→三井東圧肥料→現サンアグロ）の製品販売権を獲得していった。エネルギー革命により石炭の消費が先細るなか、次第に化学肥料の比重が大きくなっていった。

14 2代社長 荒木 省三 (1917~2008)

元三井物産社員。肥料の仕入れ・販売に敏腕を振るい山陽物産の発展に貢献した。



時代の証言

川村 左近（社員、昭和42年入社）

入社してすぐに横川に配属され、肥料の伝票管理を任せられました。当時は肥料がわら製のカマス（1袋10貫目）に詰められ貨物列車で横川駅へ運ばれてきました。需要の旺盛な時代だったため、横川駅に肥料が届くと広島、白木、高田郡、呉、西条、本郷、三原、福山の各農協はトラックをチャーターして競うように買い取りにきていました。

15 わらかマス入りの肥料



17 記念写真（昭和52年頃）

三井東圧化学の関係者が弊社を訪問した際に八丁堀の旧本社ビル3階の応接室で撮影したもの。左より秋山俊伸、刀根享一（三井東圧常務）、秋山俊秀、稲富實（三井東圧大阪支店長）、荒木省三、戸田和明（三井東圧課長）。



16 三井物産肥料特約店プレート

旧本社時代に使用していたプレート。



できごと

- 昭和46年 ゴルフ場向けの肥料の販売開始
- 昭和47年 石炭の販売を中止
- 昭和48年 オイルショックにともない決算期を7月に変更
- 昭和53年 初代社長秋山俊秀退任 荒木省三が社長に就任



主力事業の転換

燃料の販売が停滞するなか、弊社は建材の取り扱いを開始した。当初は手探りであったが、セメント、デンカ ES、薬注材料の市場へ進出していった。広島市の庚午幹線（下水道）建設工事を契機に取り扱いが大きく伸び、化学肥料や燃料にかわる新たな事業の柱となった。

18 デンカ AM 施工の様子

弊社が初めてデンカの特種モルタルを取り扱ったのは山陽新幹線建設工事であった。特種モルタルを使用することで線路の精度が大きく改善した。



19 浦項総合製鉄株式会社 (POSCO) 転炉

タスコンの納入と施工の技術指導を請け負った。千トン前後の製鉄機械を据え付けるため±0.3~0.5mmの精度が要求された。



20 スプリンクラー制御盤（芸南カントリークラブ）

新しい事業の柱を模索するなかで、ゴルフ場のスプリンクラー設計・納入を請け負った。現在に至るまで40年間にわたり無事故で稼働している。



できごと

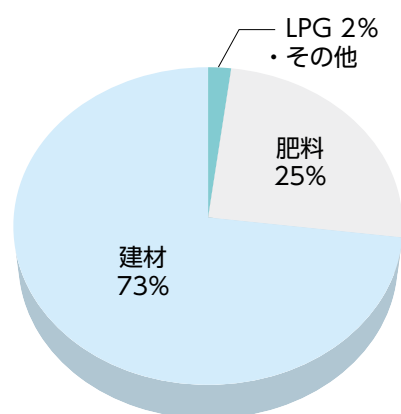
- 昭和49年 デンカ AM の販売開始（山陽新幹線建設）
- 昭和52年 浦項総合製鉄所（韓国）へのタスコンを受注 芸南カントリークラブのスプリンクラーを1億円で受注
- 昭和57年 三井セメントの販売開始 庚午幹線（下水道）建設工事へデンカ ES を納入（=薬注業界に新規参入）
- 昭和60年 動力炉・核燃料開発事業団人形峠事業所の建設工事へデンカタスコンを納入

建材（特殊セメント）の展開

特殊セメントは、鉄道や高速道路などのインフラ整備に欠かせない建材である。3代社長の秋山俊伸は特殊セメントの物性だけでなく工事現場の事情にも通じており、各工事に適した製品の提案を得意とした。このためバブル崩壊後の不況下でも販売実績を確保できた。

21 売上高の比率（昭和61年度）

肥料が25%、建材が73%となり、建材（特殊セメント）が事業の柱となっていることが分かる。



22 デンカ特殊混和材販売開始20周年記念表彰式（昭和61年）

後列左から5人目が秋山俊伸。電気化学工業社製の特殊セメント販売で好成績をあげ、中四国の代理店では唯一招待を受けた。



23 動力炉・核燃料開発事業団 人形峠事業所

日立・東芝・三菱JVより遠心分離機の基礎工事をデンカタスコンで受注した。IAEAの検査基準に適合するよう特に高い工事品質が求められた。



できごと

- 昭和61年 2代社長荒木省三退任 秋山俊伸が社長に就任
- 平成5年 デンカ、ケミカルグラウト社が共願でフルータルの特許を取得 JG-5号として大々的に販売
- 平成16年 太平洋セメントとの取引開始
- 平成19年 Superjet 固化材（SJ-2号）のOEM契約を締結

24 パッド工法講習会

秋山俊伸がデンカ社員とともに三菱重工業広島造船所の社員へ製鉄機械の据付工事に欠かせないパッド工法を指導しているところ。



デンカタスコンの練り混ぜ

施工精度の計測

成形の確認作業

25 Superjet 工法の施工事例

特殊固化材を超高圧で地中に注入することで巨大なコンクリートパイル（杭）を造成し地盤を改良する工法。弊社がフルータルを使用した固化材（SJ-3号）の開発を提案し、販売した。



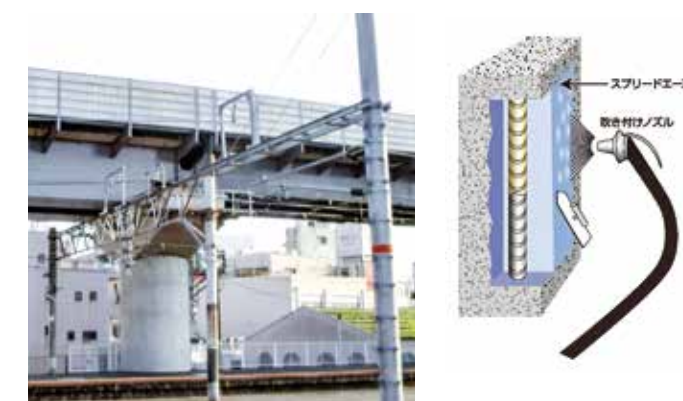
26 デンカナトミックの模擬工事（NATM工法）

山陽自動車道のトンネル工事でNATM工法が新採用された。その後、デンカナトミックは弊社のロングセラー商品となっている。



27 新幹線橋脚と補強工事の模式図

平成11（1999）年に新幹線の高架橋からコンクリート片が落下する事故が相次いだ。これを受けて高架橋の劣化対策工事が開始され、デンカスプリードは弊社のロングセラー商品となっている。



さらなる未来へ

八丁堀にあった旧本社ビルが、耐震基準を満たさないことが判明した。そこで平成20(2008)年に本社を横川へ移転した。これと前後して、肥料と建材だけに頼らない経営を目指し、弊社は新たに家庭用品の取り扱いを開始した。

28 「エリそで洗剤」の実証試験結果

「エリそで洗剤」の開発を契機として、弊社は本格的に家庭用品の取り扱いを開始することとなった。写真は実証実験のサンプル。



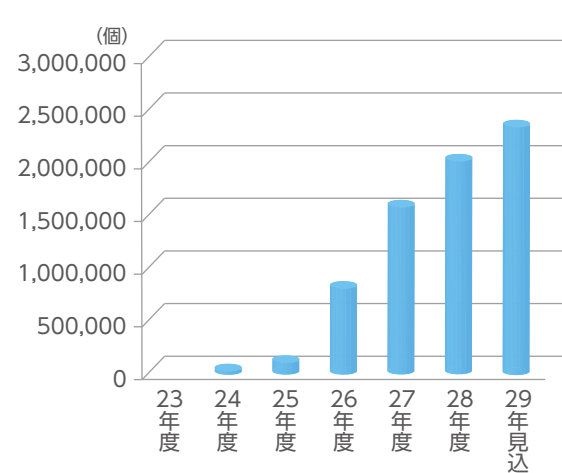
29 ニットを洗える洗剤 開発の様子

ニットだけでなく、ダウンジャケットまで洗える洗剤は珍しい。洗剤1本でダウンジャケットを4~5着洗えることも好評で、発売開始より継続してリピートがついている。



30 家庭用品出荷実績推移

仕入先の不足もあり当初は苦戦を強いられたが、商品の改良を重ねるにつれリピート需要が増加していった。平成26年度には年間実績が50万個を超え、新規事業として軌道に乗った。現在では売上高の3割を占めるに至った。



31 弊社の現社員 (平成29年7月撮影)



後列左から 岡谷 翔、前田広樹、中村郁夫、川村左近、横山恵一、原田真人、古木健太、志治綾菜、村川淳子
前列左から 伝道 悟、秋山竜一、秋山俊伸、児玉嘉宏

【歴代主要取引先一覧】(順不同、略称)

三井鉱山 大正海上火災 三井物産 三井東圧化学 電気化学工業 日産化学工業 広島県下各農協
山富商事 三井セメント ケミカルグラウト 富士化学 東曹産業 日東化学工業 芸南カントリークラブ
川重商事 三菱重工 川崎重工 日新製鋼 ヒノマル 太平洋セメント 松下電工 昭栄薬品 アイメディア
広島総合銀行 山口銀行 商工中金 注：企業名の表記について、弊社との取引当時の旧社名を含む。

【お世話になった機関・個人一覧】(50音順、敬称略)

ケミカルグラウト株式会社、積水ヒノマル株式会社、デンカ株式会社、日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター、広島市公文書館・有吉さきこ(三井物産元社員)、奥田勝彦(デンカ本社特殊混和剤部長)、清野昭(三井鉱山元常務)、川村左近(山陽物産社員)、佐田賢治(三井鉱山元社員)、下向紀彦(三井文庫研究員)、竹爪征夫(元デンカ専務)、中野真由美(山陽物産元事務員)、野田享介(三井鉱山元広島支店長)、橋本利明(積水ヒノマル広島支店長)、濱永建二(山陽物産元社員)、三橋清己(ケミカルグラウト専務取締役)、村上憲一(ケミカルグラウト広島営業所長)、横山恵一(山陽物産社員)、山下昭一(三井鉱山元社員)

【出典一覧】図表番号/出典・提供(敬称略)

6/広島市公文書館 12・13/川村左近 14/横山恵一 15/サンアグロ 18/デンカ 23/日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター 24/デンカ 25/ケミカルグラウト 26・27/デンカ
注：山陽物産または秋山家所蔵の資料に拠るものは記載を省略した。



- 平成20年 本社を横川に移転
- 平成22年 家庭用品の取り扱いを開始
- 平成23年 3代社長秋山俊伸退任 秋山竜一が社長に就任
- 平成29年8月 創業70周年を迎える



あとがきにかえて

不器用な父

秋山 竜一



山陽物産に就職した頃
(八丁堀の旧本社ビルにて)

父・秋山俊伸は、1943年に山陽物産の創業者の末っ子として生まれた。大学卒業後、一度は川崎重工へ就職するも、親に懇願されて嫌とは言えず山陽物産へ入社することとなった。広島へ戻り肥料の商売に接してみると、地方独特の人間関係と酒席接待があり、人見知りでシャイな父はなじめなかった。

そこで建材営業を手掛けてみたが、与信のアヤシイ会社ばかりで驚いた。普通なら波風立てぬよう耐えるのであろうが、こともあろうに父は、先輩が苦労して開拓した取引先を与信を理由に全部切ってしまった。

大手勤めの若さんが、酒席は断る、零細相手は嫌だと商売をやめる。今で言う「空気の読めない新人」だ。たちまち父は社内で居場所を失った。しかし父は持ち前の負けん気を発揮して、新規取引先の開拓に乗り出していった。そんなある日、デンカタスコンの韓国浦項製鐵所（POSCO）が目にとまった。

「今までの商売とモノが違う……これだ！」

父は早速、川崎重工へ退職挨拶を兼ねて訪問し、運良くその場で受注を取り付けた。ただ、この受注にはオマケがあった。契約に従い韓国へ施工指導にゆくと戒厳令が敷かれており、理由もなく憲兵に拘束される恐ろしい体験をした。程なくして朴正熙大統領暗殺事件が起きた。そんな環境下でも父は意地で仕事をやり通し、大きな実績を作った。ところが帰国して社内会議で実績を発表すると、先輩方から特需に過ぎないと言われてしまった。

「特需と言うなら、特需であなた方の実績を全部足したものを上回って見せます！」
「その時は全員、私の言う事を聞いてもらいます！」

こう宣言した父はさらにとがり、次々とキツイ仕事ばかり引き受けていった。作業着は汗と材料にまみれた。毎日夜遅くに父が作業着で帰ってきたのを、姉が子供ながらによく覚えている。だが、無理はやがては知見になり、多くの方とのご縁となり、後の大型案件へとつながっていった。

「不器用は通り越すと仕事になる。」—これが私の父親である。

山陽物産の年表（70周年）

周年	西暦	和暦	できごと
	1945	昭和20	終戦
	1946	21	秋山俊秀家族とともに香港から引き揚げ（5月）、三井物産広島支店へ勤務
0	1947	22	秋山俊秀（創業者）、広島商工会議所を本社として創業（資本金195,000円）
1	1948	23	三井鉱山の石炭の販売権を取得して本格業務をスタート 広島駅からの引込線（宇品線）へ国鉄の貨車で運送。到着後、即日完売。石炭の取扱で会社の基盤を作った。
4	1951	26	肥料の販売をスタート（日産化学、電気化学工業、東洋高压等） 農協向けの肥料の販売が本格化した。横川駅の引込線に貨車で到着した肥料（10貫目のカマス入り）は毎回即日完売。石炭に次ぐ商品となった。肥料の取扱いは日通が全面的に行い、在庫が発生した場合は日通の横川駅倉庫、楠木町倉庫で保管して翌日配送。
13	1960	35	荒木省三入社
15	1962	37	可部倉庫新設 肥料は競合相手多数となり、自社倉庫での管理と配送を開始した。（80%は運送会社のトラックを使用）
17	1964	39	八丁堀に本社新築・移転
24	1971	46	農協以外のゴルフ場向け肥料等の販売開始 パブル期に向けゴルフ場の開発が相次ぐ。造成時およびその後の保守のための肥料、農業を受注。
25	1972	47	千歳商事、三井東庄肥料との間で日本ゴルフ振興向け肥料（JGP3、JGP4）のOEM契約を締結 工場から10t車で全国14か所のゴルフ場への直送。
27	1974	49	建材部を新設、山陽新幹線（岡山～博多）建設工事にともないデンカ特殊混和剤（デンカAM）の販売開始 弊社の4階にデンカの広島営業所が置かれた。現在まで42年間弊社の大口仕入先となる。
30	1977	52	秋山俊伸入社（8月1日）、川崎重工より韓国・POSCOへのタスコンを受注（8月23日） デンカとして製鉄所へのタスコ納入をスタート。以後、実績を重ねる。
31	1978	53	荒木省三社長就任、芸南カントリークラブへ自動散水設備を設置・納入
35	1982	57	三井セメントの販売開始、庚午幹線（下水道）にてケミカルグラウト社のコラムジェット工法のバラセメントを初出荷 薬注業界への参入、現在までケミカルグラウト社が弊社の大口得意先となるきっかけとなった。
37	1984	59	日新製鋼製鉄所の圧延設備工事でタスコンを受注 大クレーム発生、クレーム対応の結果、現在の優秀なデンカタスコンが誕生することとなった。
38	1985	60	人形峠のウラン濃縮遠心分離機へ日立・東芝・三菱JVよりタスコンを受注 デンカに代わり弊社がIAEAの査察へ対応。
39	1986	61	秋山俊伸社長就任
44	1991	平成3	資本金を2,500万円の増資
46	1993	5	東京都の下水道工事（浜松町）にてフルータル（JG-5号）を受注 初の1億円突破、ケミカルグラウト社へ出荷。
50	1997	9	JR東海の浜松町工事等にてフルータル（JG-5号）を受注 平成13年の完工までの超突貫工事に対してフルータル（JG-5号）をケミカルグラウト社へ連続出荷。
53	2000	12	JR西日本の新幹線の橋脚の耐震補強工事にデンカスプリードが採用 現在まで順調に出荷が継続している。
54	2001	13	名護トンネル工事でケミカルグラウト社よりデンカESを受注
55	2002	14	有明湾干拓工事でフルータルを受注
57	2004	16	三井鉱山がセメント生産より撤退、太平洋セメントとの代理店契約をスタート
60	2007	19	ケミカルグラウト社からの要求でSuperjet固化材（SJ-2号）のOEM契約（太平洋セメント、デンカ）が成立
61	2008	20	横川に本社移転
62	2009	21	秋山竜一入社
63	2010	22	殿ダム工事でケミカルグラウト社よりデンカESを受注
64	2011	23	秋山竜一社長就任、エリそで洗剤の製造開始
70	2017	29	創業70周年（8月4日） 新企画の事業部を発足させて躍進を続けており、石炭→肥料→建材→新企画と事業の継承は順調である。歴代4名の社長が常に、会社の前進にそれぞれが貢献して次世代に更なる躍進が期待される。